

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2011年4月発行～

ひびきジャーナル



〒106-0031 東京都港区西麻布 2-9-2 Tel:03-3407-3726

Fax:03-3797-5640 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

No.28

発行日 平成23年4月25日

発行責任者 玉木宏樹

編集 NPO 法人 純正律音楽研究会
玉木宏樹・相坂政夫

東日本大震災特別号



会員の皆さん、ご無事でしょうか。東日本大震災から早1ヶ月、震災に遭われた方々の復興が徐々にではありますが進んでいるように思われます。当会事務所も震災の時は、本、CD、グラス、スピーカー等全てが雪崩のように落ちてきました。幸いけが人もなく無事でした。桜が咲く4月2日にはコンサートを予定していましたが、中止としました。また、「第三回純正律音楽入門セミナー」も中止とし、「第四回純正律音楽入門セミナー」を4月23日(土曜日)に開催、「ハープとヴァイオリンの純正律音楽コンサート」を5月28日(土曜日)に開催と致します。ご予約等、詳細は巻末にございます「今後のスケジュール」にてご確認下さい。まだまだ震災の傷跡が残っていますが、少しでも皆さんに元気を出して頂くよう前向きに頑張っていきたいと思っております。

♪巻頭対談♪
《震災用 DL について》

対談、武内重親（純正律音楽研究会会員）

玉木宏樹

未曾有の震災で、お亡くなりになった方々の御冥福を祈りつつ、被害にあわれた方々には深くお見舞い申し上げます。当研究会としても何かお役に立てることはないかと考えた末、健康雑誌「壮快」にも不安神経症に大変効果があり、不眠症、頭痛、耳鳴り等に著しく効果がある、と何回も特集されている玉木宏樹の純正律音楽を震災被害者用に無料ダウンロードのサービスをはじめました。パソコンをお持ちの方は、<http://www.tamakihiroki.com/> にアクセスしてみてください。今回の対談は、この DL サービス構築にあたり、大変御尽力下さった武内さんをお迎えしました。

玉木：武内さん、たいへんお世話になってありがとうございます。うちの会員は年輩の方も多いので、私は分かっているつもりですけど、ダウンロード(DL)、ってどういうことか教えて頂けませんか。

武内さん：携帯でやる人も増えていますが、パソコンにインターネット上の、音や映像をとりこむことです。パソコン上で再生して楽しむことです。

玉木：すごい乱暴な言い方をすれば、放送されている音楽をカセットテープに録音する、という考え方に似ているんでしょうね。

武内：そうだと思います。

玉木：御自分でパソコンやらない方も、若い人に頼めば、大抵の人は知っていますから簡単だと思いますね。

武内：若くてパソコンやっている人なら DL は知っていると思いますよ。

玉木：話はかわりますが、今回、いったい自分は何ができるんだろう、と考えましたね。

武内：私もそうです。

玉木：コンビニへ行って釣銭は箱に入れるけど、義援金は出していない。

武内：私も出してない。

玉木：中越地震の時、義援金が10億円も余ったなんて話をきくとねえ、かといって現地でコンサートをやるとしても、場所もない、交通手段がない、宿泊先もない、じゃ、返って足手まといだし、東京でのチャリティーコンサートってのも何だかねえ。

武内：ある人と話してたんですが、車にパソコン積んで現地の人に使ってもらおうという人もいます。そうすればDLもきけるし。

玉木：それはすばらしい。いいことだねえ。で、自分としては何ができるのかを考えてみて、自分の純正律音楽のDLを思いついたんです。「壮快」に何回も紹介されて、不安症にたいへん効果がありそうだとの評判もあるし。ところが実は私はDLが嫌いで避けてきたんですよ。

武内：どうしてですか。

玉木：著作権のクリアーが非常に難しいんですね。私は古いアナログ世代ですから、自分の音楽を利用した人はちゃんと、演奏料や作曲料の対価を払ってほしい。

武内：当然ですね。

玉木：ところが今の若い世代は著作権の考えが全く違う。著作権を否定する人が多い。そんな人たちは、音楽で金もうけするつもりか、なんて言って、JASRAC(ジャスラック・日本音楽著作権協会)のことをカスラックなんていって敵意をむき出しにする。だからDLには近づかないようにしていたんです。音質の問題もあるしね。

武内：今はいい音になってきてますよ。

玉木：それで今回、自分は期間限定で無料DLを思い切ってやってみようと思ったんですね。

武内：始めて約10日くらいたちましたね。

玉木：僕はDLのカウントの仕方も分からないんだけど、武内さんはこまめにやってくれていますね。それでどんな感じですか。

武内：とてもいい反応だと思いますよ。DL用に5曲用意したんだけど、約10日で3,000曲分DLされています。

玉木：えー。そんなに！

武内：また、コメントをよせてくれる人もいて、とても美しくて、和むとか。

玉木：純正律の特長は、オーディオシステムが劣化してもハモるということが

劣化するわけがないのでね。私は武内さんからすすめられた、タイムドメインの小さなスピーカーで聴いていますが。

武内：ほんとに透明感が残りますね。誰が聞いても違うということはよく分かるようです。昔の平均律になる以前の曲を純正律でやるのはとてもいいと思うんだけど、平均律になってから作曲されたものを純正律でやってもあまり意味はないんじゃないと思うんですけど。

玉木：全くその通りです。ところで話はかわりますが、武内さんと知り合っただけでそれほど時間がたっていないのと、会員の人たちにも武内さんの人となりを知ってもらいたいのので、仕事のこととか、音楽の関わりのこととか教えてくれませんか。いやならいいけど。

武内：いやなことは何もないけど(大笑い)、少し大変かな。

玉木：簡単でいいですよ。(大笑い)

武内：まず両親が音楽が好きでした。お袋が国立音大で声楽をやっていたんですね。大正時代に学生をやっていて、当時は新橋から国立まで蒸気機関車で通っていました。

玉木：エー！信じられない。

武内さん：ソプラノでオペラをやったりしてましたが、プロにはならず、テストでレコードを録音したりしてました。

玉木：進取の気性があったんだ。

武内：変わってますよね。親父は芸大の予科、夜やってたんですが、そこでヴァイオリンを習ってまして、アンサンブルなんかもやっていたらしく、そこで知りあったのか、結婚したんですね。年取った親父は酒が好きで、飲むとヴァイオリンを奏きだして、お袋が伴奏したりしてました。

玉木：へえーっ！

武内：それが私の、当時、小学校から中学の時代でしたが、音楽体験の始まりでしたね。

玉木：お父さんの得意な曲は？

武内：曲名は知らないんだけど、メロディックな曲が多かったですね。その後、私はピアノやギターをやったんですが、全く誰にもついていません。大学時代はバンドを組んでアメリカのピートシガー流の歌をうたい、ギターもやっていました。

玉木：エレキ？

武内：いや、アコースティックです。

玉木：ウッドストック世代なんだ。

武内：まさにその通りです。大学は理科系だったので、卒業してすぐに東芝に入ってコンピュータをやるようになってからは音楽とは遠ざかりましたね。東芝からはアメリカに留学させてもらって、あまりにも向こうとの差があるのに驚いて、辻説法みたいに、米国との差なんかを話しているうちに会社から、じゃ、米国やヨーロッパへ行ってこいと言われて行きました。東芝をベースにいろんなことを。

玉木：当時のヨーロッパのコンピュータ事情はどうでしたか？

武内：アメリカと違って、コンピュータと人間の関わりのことが中心でしたね。画面と眼のこととか電磁波のこととか、キーボードを打つ姿勢とか。

玉木：人間工学なんだ。

武内：その通りです。その間アメリカに追い越されましたね。

玉木：フーン。

武内：そのうちに大きな組織にいることに疑問を感じ始めましてね。

玉木：いくつの時？

武内：40 ですね。それで東芝をやめて、欧米のコンピュータの友人たちといろんな話をしているうちに、アメリカのアップル社と知り合いました。そして、日本でなにか新しいことができるかも知れないと思い、アップルジャパンの社長を引き受けました。

玉木：いつでした？

武内：1988 年か 1989 年。

玉木：じゃ私がマック 2CX を買ったころだ。当時 120 万円もしたなあ。武内さん儲けたねえ(笑い)

武内：当時はドルが高かったから。

玉木：また話変えるけど、武内さん 60 過ぎてからヴァイオリン始めたよね。ここところ 3 回ばかり私も少しアドバイスしたりしているけど、ヴァイオリン始めたきっかけは？

武内：父が 60 で亡くなってるんですが、自分も 60 になって親父のヴァイオリンをケースを開けて、このヴァイオリン、なんとかしてやろうと思って、いろんなパーツやなんかを買い求めて、なんとか形にしたんですが、それじゃヴァイオリンをやってみようかと思い、久我山の先生を見つけま

した。

玉木：主に何をよく言われますか？

武内：音程ですね。実は父からも A の「#」と B(変ロ)はピアノじゃ同じけどヴァイオリンではちがうと言われたことを思い出したりして、ネット上で純正律とかピタゴラスなんかを調べている内に玉木さんの HP を見つけたんです。

玉木：あなたとはどういう出会いだっただけ。

武内：で、いろいろと玉木さんの書いたものを読んでいるうちに、コンサートのことを知り、いったんです。

玉木：そうだ、茗荷谷のラリールだ。

武内：終ってちょっとしゃべっていたら玉木さんから、これから池袋で飲むから行かないか、と誘われていったんですよ。

玉木：そうそうそうだった。ところで僕は人を教えたこともないし、どうしたらいいか分からないんで、いい加減なことばかり言っているけど、他人とくらべてどうなんだろうね。

武内：だいぶ変わっていると思いますよ。

(このあともけっこう話は弾みましたが、どう変わっているかは分からずじまい。対談としては、ここで終りとします。)

純正律音楽の無料ダウンロードサービスは <http://www.tamakihiroki.com/>



ムッシュ黒木の純正律講座 第28時限目

平均律普及の思想的背景について(17)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

振じ曲げられた歴史というのは、実は、音楽史だけではない。今回は、少し別の領域に目を向け、レトリックというヨーロッパの言語教育の歴史について見てみたい。

レトリックとは日本語で「修辞学」あるいは「雄弁術」の名で知られる古代からの伝統である言語技術教育である。古くは古代ギリシア・ローマ文明に発するが、ヨーロッパではアリストテレス、キケロやクインティリアヌスの著作を基にして16世紀の末に言語教育法プログラムが開発される。1958年にパリ大学で開始されたプログラムと1599年のイエズス会のプログラムである。これらのプログラムは文法、詩学、レトリックの3つのクラスで構成されており、そこで習得すべき技術は1: Inventio (発想)、2: ディスポジティオ Dispositio (配置)、3: エロクティオ Elocutio (修辞)、4: メモリア Memoria (記憶)、5: アクティオ Actio (発表) の5つの部門に分けられていた。このような教育法は、カトリック地域においては専門課程に到る前の基礎教養課程として機能することになる。つまり、分野の区別なくあらゆる学者が身につけるべき知識・技術として位置づけられていたということだ。また、法学や医学などの専門知識を駆使して食い扶持を稼ぐ必要のない貴族の子弟は、レトリック課程の修了で学業を終えたことも言い添えておく。

そのレトリック教育であるが、19世紀末に突然終わる。1885年に教育課程から排除され、1902年には「レトリック」という名称さえも姿を消す。フランスの19世紀末と言え、第三共和制が始まった時代である。第三共和制とは18世紀末にフランスが王の首を切り、王制から共和制への移行を目指した後、帝政や王政復古などの反動あるいは紆余曲折を経てようやく共和制という政体安定を迎えた時期である。現在のフランスの政体は実質この時代を起源に持つと言って良い。そしてこの第三共和制は1871年の普仏戦争に敗れたところから始まった政権であることを言い添えておく。

この第三共和制において、政教分離や義務教育制度などフランス民主主義が誇る諸制度が整備されていく。1802年に着手された公教育制度は1833年のギゾー法を経て、1881年以降のフェリー法によって義務教育は現実のものとなっ

たのである。ここで求められたのは、政府の手による万人のための教育であり、現在の公教育制度と直接繋がっているシステムがこの時代において開始されたと言って良い。

王制を廃止して成立した第三共和制が自らの教義として政教分離を掲げている以上、上流階級のための基礎教育課程というイメージを強く持ち、イエズス会との結びつきが強いレトリック教育が敬遠されたのは当然の成り行きであったと言えよう。政治の場から、王家とカトリックが断固として追い出されたのと同じように、レトリックも教育の世界から急激に排除されていくのである。以降、レトリックはオリヴィエ・ルブールが言うように侮蔑の対象となる。

レトリック(*la rhétorique*)とは、現在では軽蔑的用語だ。自分がレトウール(*rhéteur*, 原義「修辞教師」／日常語義「内容空疎な修辞家」として扱われるのを喜ぶ人など一人もいないし、あの演説は「レトリック」が素晴らしいね、といえば、それはその演説をけなすことなのである。同様に、もとはレトリックの技術的用語で、現在では日常語として用いられる、ごくわずかの言葉も、ほとんどすべてが軽蔑的な用いられ方をする。¹

このレトリックを20世紀に研究対象として議論の俎上にあげたのがロラン・バルトである。彼は1964-5年に国立高等研究実習院で行なったゼミナールの内容をまとめ1970年に『旧修辞学』²を出版した。この著作が、多くの文学者研究者にレトリックの名称を喚起したのは確かだろう。その後、ジェラルール・ジュネットは1970年に論文『限定されたレトリック』³を発表し、新たなレトリック研究の一里塚を示すのである。

このジュネットの論文においてレトリックは、18世紀のデュマルセ、そして19世紀初頭のフォンタニエ以降、1: *Inventio* (発想)、2: *Dispositio* (配置)、3: *Elocutio* (修辞)、4: *Memoria* (記憶)、5: *Actio* (発表) の5つの部門のうち、エ

¹ 佐野泰雄訳、『レトリック』、白水社、2000年、p.7.

² 沢崎浩平訳、みすず書房、1979

³ ジェラルール・ジュネット、花輪光監修、「限定された修辞学」in『フィギュール III』書肆風の薔薇、1987.

ロクティオ Elocutio (修辞) に、更にその中でも転義法に限定され、とうとう 19 世紀末に消滅したという歴史が提示された。

しかし、この歴史は全くの出鱈目だったのである。

CD レビュー 純正茶寮

【特別編、震災によせて】

玉木宏樹

*震災用 DL サイト、オープン

未曾有の大震災にあわれて、お亡くなりになった方に御冥福を祈るとともに、被害にあわれた方には深くお見舞い申し上げます。

私は生まれてから 18 年間神戸にお世話になり、一族郎党もすべて神戸にいますので、阪神淡路大震災は我が身に起こったような気分もあり、今回の地震もすぐに神戸と比較し、最初、地震そのものの被害は神戸より少ないのではないかと思っていたら、あの「想定外」「未曾有」の大津波、そしてとんでもない原発事故。三つもの要素が重なり、どこに一番重点を置くべきか右往左往の無能とも思える政府の対応。悲惨な映像ばかりの TV を見てはまた気分が落ち込み、9・11 の NY 事件の時におそわれた「サイキック・ナム」(答えのない事態に出くわした時に起こる無気力状態)を思い出し、それ以後は TV 映像を一切拒否してなんとか日常に戻りつつあります。

私はツイッターをやっていますが、その書き込みにとんでもない TV の実態が報告されていました。多分、喫茶店で偶然出会った人の目撃で、ある TV 局の一行。プロデューサーらしい人が、インタビューの仕方、そしてどういう角度で絵を撮れば、センセーショナルで悲惨にうつるかということ若くは若いディレクターやカメラマンに檄をとばしているのを見た、というのです。皆さん、しばらくの間、TV はやめて、ラジオにしませんか？

さて皆さんはこういう事態を目前にして、自分は何ができるのか、ということを考えてたり悩んだりしている方も多いと思います。私自身は当初、何ができるのか、ということより、3 月 19 日の純正律セミナーと、4 月 2 日の純正律コンサートを中止にすることの方が先でした。やっと 4 月に入ってから、何ができるのかを考えつつあります。と、言いつつ、コンビニのおつりは入れますが、まとまった金額は未だ出していません。まとまったお金は中越地震の時、なかなか当事者には届かなかったということも覚えているし、自分の気持ちを金額に替えるということの後ろめたさも若干考えたりしているうちに音楽家

は音楽を通して社会還元するという当たり前のことを実現するにはどうしたらいいかと考えるようになりました。その為には現地の慰問演奏がいいのですが、交通の便も悪く、宿泊のことなんかを考えると、返って足手まといになりかねません。それでは東京近辺のチャリティコンサート、という隔靴搔痒のイベントしかないのか、と重いつつ、作曲家でもある私は自分の作品もお役に立つことを考え、震災用の無料音楽ダウンロードを考えつき、サイトを立ちあげました。

私がここんどこ何年か続けている天国的ハモリの音楽世界「純正律」が健康雑誌「壮快」に何度も特集され、なぜか、(自分では想像もしなかった)頭痛が軽減した、不眠症が治った、耳鳴りに効果的、認知症がおとなしくなった、ペットがおちついた、等々の不安症的な人々に、すごい効果があったことが報告されており、今回はそういう私の作品を無料ダウンロードできるサイトを立ち上げました。ぜひ皆様にもアクセスして頂きたいのです。URLは <http://www.tamakihiroki.com/>

この DL サイトには次の 5 曲を用意しています。1. 第三の夢 2. 恋はマリオネット 3. 雪柳 4. 早春賦 5. ふるさと です。最初の 3 曲は玉木のオリジナルで、あとは玉木の純正律による童謡 CD 「ふるさと」からの 2 曲です。

今回はこの純正律による童謡集 CD 「ふるさと」を紹介します。シンセサイザーによるオーケストラの調律はキルンベルガー第三、玉木のヴァイオリンソロは全部純正律です。

【ふるさと】 日本の心、純正律の童謡特集 Vol. 1
定価 2,100 円(税込) ARCHI-10901

(曲目)

- 1.早春賦 2.この道 3.鯉のぼり 4.証城寺の狸囃子 5.ゆりかごのうた 6.荒城の月 7.宵待草 8.夕焼けこやけ
- 9.おぼろ月夜 10.浜辺の歌 11.砂山 12.みかんの花咲く丘 13.紅葉 14.里の秋 15.赤とんぼ 16.故郷
- 17.赤い靴 18.青い眼の人形 19.七つの子 20.叱られて 21.冬景色 22.春が来た

純正律音楽研究会(03)3407-3726 で通販しています。正会員は割引があります。

「Musica おおた」の音楽よもやまばなし

ア・カペラの魅力 ♪改めて実感・純正律の美しさ♪

純正律音楽研究会 正会員
音楽事務所 Musica おおた
廣川 深

今回は、自分の体験をもとにして私なりに純正律関連のお話をしたいと思います。

今から 20 年前、小学校の音楽専科教員をしていた時代には、合唱といえばピアノ伴奏付きというのがごくあたりまえのように思っていました。実はこの頃は純正律についての概要は知っていましたが実際に体験したことはなかったのです。ところが 10 年ほど前、私の大学の恩師が率いる合唱団の練習を見学に行ったことにより、私の中で大改革が起きました。なんと練習場には楽器はなにもありません。練習曲は、ハインリッヒ・シュッツの宗教合唱曲。歌い出しの最初の音だけを先生が持参した小型キーボードでとり、あとはすべてア・カペラ。練習中に楽器の音を出すことはありませんでした。平均律のピアノでは決して聴くことのできないあの美しいハーモニー。今でも忘れることはありません。平均律のピアノは、それはそれで大変素晴らしい楽器です。しかし、それを正しい音程として 100%信じてきたものは一体何だったんでしょう。4 歳のときから音感教育と称して、平均律のピアノをたたきこまれたのですから、無理もないことですが.....。

それ以来、ピアノ伴奏付きの曲であっても練習時にはア・カペラでハーモニーをつくることを基本としてきました。実際に、伴奏がついていても、ア・カペラで歌った方が美しいと思われる曲がたくさんあります。合唱教本であるコールユーブンゲンの序文にある有名な一節「平均律の楽器で音をとってはいけない」が私の合唱指導の基本です。先日合唱団の練習時に、純正律に調律したチェンバロと平均律のピアノを聴き比べてもらったところ、全員がミの音の高さの違いに驚き、純正律のドミソの美しさに感心していました。(合唱が好きな人の集まり。全員アマチュアです)実は私自身もこの実験で改めて純正律の美し

さを再認識した次第です。ただし、純正律は転調ができないので、私のチェンバロは普段はミーントーンです。

また、これとは別に私は国立音大附属中、ヴァイオリン専攻の生徒にソルフェージュを指導しています。レッスンでは和声学をはじめとして、ピアノを使って指導することが多いですが、ことあるごとに平均律と純正律についての話をしています。ヴァイオリンの生徒だからこそ知ってほしいのです。特に5度圏の説明では「5度圏の環は閉じていない。そしてこの100分の24の歪みを数学的に平均に分散させたものが平均律だ。」と教えています。最近、アマチュアの方からも「平均律と純正律の違いを教えて欲しい」という声を時々聞きます。言葉は知らなくても「ヴァイオリンの調弦はピアノの音とは違うの？」くらいのことはいいます。結構アマチュアでも気づいている人は多いのです。プロとして音楽に携わる者は、この疑問にしっかり答えられるだけの知識と実際の体験が必要だと思います。



爆睡中

(純正律音楽のペットコンサートにて)

イベントレポート

2月26日土曜日

【第二回純正律音楽入門セミナー】

当日は狭い事務所に、スタッフを含め11名で、午後2時から、ハーモニートレーナーによる純正律と平均律の聴き比べに始まり、カーツウェルによる複雑な和音の聴き比べ、平均律の説明といろいろな調律、世界の純正律音楽シーンの紹介等々の講義の後、玉木宏樹作曲の実演を聴き、皆様堪能されて、お帰りになりました。



この模様は USTREAM で録画されておりますので、いつでも御覧頂けます。

<http://www.ustream.tv/recorded/12946818>

3月19日土曜日

【第三回純正律音楽入門セミナー】

東日本大震災(3月11日)のため中止いたしました。

4月2日土曜日

【♪純正律音楽コンサート♪】

東日本大震災(3月11日)のため中止いたしました。

今後のスケジュール

2011年5月21日土曜日 14:00から

【第五回純正律音楽入門セミナー】

場所：純正律音楽研究会 事務所

料金：1,000円（会員特別価格 500円）

ご予約：電話 03-3407-3726 FAX03-3797-5640

mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

2011年5月28日土曜日 開場 13:30 開演 14:00

ハープとヴァイオリンの【♪純正律音楽コンサート♪】

場所：『ラリール』地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅徒歩6分

出演：三宅美子(ハープ)・玉木宏樹(ヴァイオリン)

料金：3,500円(会員特別価格3,000円)

ご予約：電話 03-3407-3726 FAX03-3797-5640

mail：puremusic0804@yahoo.co.jp



2011年6月14日火曜日 開演 18:30(開場 16:00)

【邦楽チャリティーコンサート／西潟昭子と洗足音大の仲間たち】

場所：四谷区民ホール「四谷区民センター9階」(新宿区内藤町87番地)

地下鉄丸ノ内線「新宿御苑前」徒歩5分

入場料：3,000円「復興支援金」

この公演の収益金は、日本赤十字社と太平洋写真学校再建のために寄付されます。

お問い合わせ：洗足学園音楽大学 現代邦楽研究所 044-856-2932



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒106-0031

東京都港区西麻布2-9-2 NPO法人 純正律音楽研究会

お電話：03-3407-3726 FAX：03-3797-5640

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

<http://www.archi-music.com/tamaki/>

平成23年4月25日

発行責任者：玉木宏樹

編集：相坂政夫